

2022年6月議会 一般質問登壇原稿

いのちが大事 野村羊子

野村羊子です。本日最後の質問者です。よろしくお願いいたします。今までの質問者と重なる部分がありますけれども、改めて確認の意味も込めて質問させていただきます。

今回の私の一般質問は、市民の声が生きるまちづくりです。三鷹市は計画行政を行っており、事業実施に際しては、まず計画づくりから始まります。計画の策定プロセスの中で、また、事業の実施段階で、市民の声を聞き、それを生かしていくのは、民主的な市政運営にとって重要な課題であると考えます。

そこで、(1)、ア、国立天文台周辺のまちづくりの計画についてお伺いいたします。

現在三鷹市は、羽沢小学校の移転を基軸とした国立天文台敷地を中心とするまちづくりに取り組んでいます。

質問1、国立天文台周辺地域土地利用基本方針の策定など、現状の取組についてお伺いいたします。

質問2、今後の計画の進め方、時期の見通しについてお伺いいたします。

イ、いのちが大事に寄せられた市民の声について。

私たちいのちが大事は、3月20日から4月20日にかけて、国立天文台周辺まちづくりアンケートを行い、様々な市民の意見が寄せられました。羽沢小学校の移転、大沢台小学校の統合・移転、大沢コミュニティ・センター、西部図書館、西部市政窓口の統合・移転に関しての賛否、そして計画に対する御意見等を伺いました。賛否はほぼ拮抗していました。この結果については、5月25日にいのちが大事のフェイスブックページに公表しています。そこに寄せられた市民の不安や懸念の声にどう応えるのかをお伺いいたします。

質問3、天文台敷地の自然環境を守ってほしいという声が多数ありました。どのようにお答えになるのか、お伺いいたします。

質問4、羽沢小学校の移転は、通学距離増大による子どもの負担増となることを心配する声が多かったです。どう対応するのか、教育長にお伺いいたします。

質問5、羽沢小学校と大沢台小学校の統合は、羽沢小学校の今の落ち着いた教育環境等が失われることだとして、懸念する声が複数ありました。羽沢小学校への思いあふれる声が、保護者や卒業生から寄せられています。どう対応するのか、教育長の見解をお伺いします。

質問6、羽沢小学校は浸水対策を講じた上で、現地建て替えとすべきだとの声があります。シミュレーションして、具体的に対策を示すべきです。市長の見解をお伺いします。

質問 7、野川沿いに、避難所を含む公共施設が必要だという声があります。どのように対応するのか、市長の見解をお伺いします。

ウ、市民の声を聴くことについて。

質問 8、一方で、事業費の見通し等が示されないなど、説明が不十分で判断できないなどとした、分からないとの回答が 10%から 17%ありました。市民へのより具体的な説明の場がもっと必要です。市長の見解をお伺いします。

質問 9、賛否が拮抗しているのは、議論が煮詰まっていない状態だと考えます。今後の計画策定に向けた過程の中で、市民の声を聞き、議論を重ねるプロセスが必要です。市長の見解をお伺いします。

(2)、新都市再生ビジョン（仮称）中間まとめについて。

三鷹市は 2007 年度にファシリティ・マネジメント推進本部を設置し、2008 年 3 月には都市再生ビジョンを策定しました。重ねて策定している公共施設等総合管理計画は、2017 年度から 2026 年度を計画年度としています。それを踏まえて市は、この 5 月に新都市再生ビジョン（仮称）中間まとめを公表し、12 月にはこの新ビジョンを策定する予定です。

ア、ファシリティー・マネジメントについて。

このように、本市は早くからファシリティー・マネジメントに取り組み、予防保全の考えを取り入れた公共施設の維持管理を行ってきたはずで

質問 10、今回策定する新ビジョンにおけるファシリティー・マネジメントは、今まで実施してきたファシリティー・マネジメントの方針転換となるのか、延長線にあるのか、基本的な姿勢についてお伺いします。

そして、公共施設は市民の財産です。

質問 11、施設の資産価値を効果的な管理運営という中に、市民ニーズ、市民の声はどのように考慮し、反映して生かしていくのかについて、市長の見解をお伺いします。

イ、分散化と複合化について。

中間まとめには、今後の公共施設整備の方向性として 4 点を挙げていますが、その中で、総合型・融合型施設づくりによる魅力の向上と維持保全、経費の縮減、分散型ネットワーク型の公共施設の再編が挙げられています。

質問 12、総合型・融合型施設づくりと分散ネットワーク型の再編とは矛盾しないのかについてお伺いします。

質問 13、今後の公共施設の維持管理、改修・改築に当たっては、質の向上を目指すべきであり、量の最適化、すなわち縮減、統廃合が目的にはならないと考えます。市長の見解をお伺いします。

ウ、財政見通しについて。

中間まとめで示されている公債費及び市債残高の推計では、2023 年以降は第 4 次基本計画（第 2 次改定）による推計値で、市債発行額は年 15 億円とされています。しかし、羽沢小学校の改築や駅前再開発、その他の改修・改築等々が実施されれば、グラフは大幅に上振れすることになります。

質問 14、最終的なまとめには 2042 年までの改修・改築の費用が加味、加算されたグラフとなるのか、お伺いします。

質問 15、少なくとも前期で実施する改修・改築についての費用を明示したグラフとすべきです。市長の見解をお伺いします。

(3)、東京外郭環状道路について。

ア、大泉ジャンクションでのシールドマシンの事故について。

2 月に掘削を再開したばかりのシールドマシンが、事前に施工されていた地中壁にぶつかり、破損したと、4 月 12 日に公表されました。

質問 16、事故の発生連絡はいつであり、経過についてどのような説明を受けているか、お伺いします。

質問 17、この事故の原因は何であり、被害はどのようなものと説明されているか、お伺いします。

質問 18、事故復旧のために何を行い、期間はいつまでかかるのかの説明を受けているか、お伺いします。

イ、再発防止対策について。

本年 2 月 28 日、東京地方裁判所は、東京外環シールドマシン工事の一部について、工事の違法を認め、シールドマシン工事の差止めの仮処分決定をいたしました。これは東名立て坑発進の、現在、調布市域で停止している 2 台のシールドマシンについて、再発の危険性があるため、動かしてはならないとするものです。しかし、今回の事故を起こした大泉ジャンクション及び現在動こうとしている中央ジャンクションにおけるシールドマシンの工事は、再発防止対策が講じられているから対象外とされたため、掘削が再開されました。その矢先の事故でした。

質問 19、再発防止対策では、モニタリングしながら掘削するとされていました。地中

壁との衝突は回避できるようなモニタリングではなかったのか、どのような説明を受けているか、お伺いします。

質問 20、再発防止策では、地元への連絡を速やかに行うとされていましたが、実際には事故が判明してから5日後の公表でした。この情報伝達の空白期間について、何らかの説明を受けているのか、お伺いします。

質問 21、地中にある障害物との衝突事故についての再発防止対策が講じられるか否かの説明はあったのかについてお伺いします。

質問 22、住宅の下でトラブルが発生した場合、どのような対処方法があると説明を受けているのか、お伺いします。

ウ、中央ジャンクションのシールドマシンについて。

質問 23、2台のランプシールドマシンの現在の稼働状況についてお伺いいたします。

質問 24、大泉ジャンクションの事故を受けて、中央ジャンクションでの再点検等は実施しているのかについてお伺いします。

質問 25、事故再発防止対策強化を求めることについて、市長の見解をお伺いいたします。

以上で壇上での質問を終わります。自席での再質問を留保いたします。御答弁よろしくお願ひいたします。